

農事組合法人川西 代表理事 松永 茂夫（山口県山口市）

品 種	作付面積	単 収	地域の単収との差（地域の平均単収）
みなちから	22.8ha	685kg/10a	159kg/10a（526kg/10a）※

※ 作柄調整後の地域の平均単収

経営概況

- 平成20年法人設立
- 役員5名、構成員45名

作付品目

- 主食用米 64.8ha（にじのきらめき、恋の予感、中生新千本 他）
- 飼料用米 22.8ha ○ WCS用稲 8.2ha
- 酒米 8.2ha ○ 二条大麦 33.6ha
- 小麦 34.3ha ○ 大豆 6.6ha ○ 野菜 4.7ha

取組のきっかけ

- 実需者である秋川牧園（以下「実需者」）と飼料用米生産者の耕畜連携（資源循環型サイクル）を基本とした取組に共感するとともに、稲作作業の省力化、経営の安定化を図るため、平成21年産から飼料用米に取り組む。

取組概要

- 12月から1月にかけて稲わらのすき込みを行うほか、6月上旬に実需者から提供を受けた鶏ふん堆肥を散布（1,000kg/10a）。基肥は、田植時に一発肥料「被覆尿素120日タイプ」を田植同時側条施肥することにより省力化を図っている。
- 病虫害防除は、「フルスロトル」（50g/箱）を播種作業時に施用することにより省力化を図っている。
- 雑草防除は、田植時に田植同時散布機で除草剤「ベッカク」（1kg/10a）を散布。田植後は、農薬の効果を高めるため適切な湛水管理を実施。
- 乾燥・調製は、刈取りを遅らせ立毛乾燥することによりコスト低減を図っている。
- 田植機、トラクターへの自動操舵システムの導入、リモコン草刈り機の導入により、安全性の向上、軽作業化、人件費の削減を図っている。
- 栽培期間中、実需者主催の全生産者現地巡回視察（年2回）を活用し、多収穫、コスト低減等の生産技術の向上を図っている。

